

防火活動

火災の再発防止と被害の最小化に向けた取り組み

1997年2月1日に発生した刈谷工場火災を教訓に、従業員に対し防火に対する「知識・意識」を高め、防火に強い人づくり、職場風土の醸成、リスク感度を高める活動をグループ一体で推進しています。

①防火意識の高揚

アイシン防火の日、体感教育、伝承館での過去火災の継承

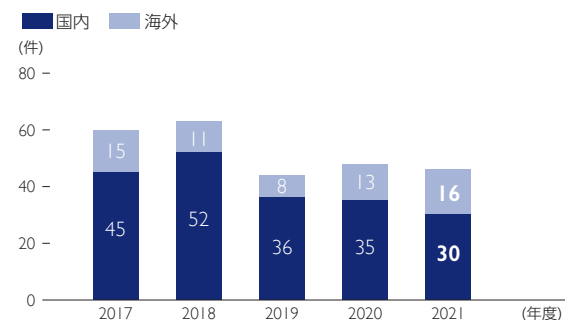
②火災リスクの低減

防火基準に適合した施設や設備の増強、火災発生時の基本4行動、防火サーベイランス

③防火管理体制

防火訓練、防火管理規程・要領の制定、消防設備点検

アイシングループ国内外火災発生状況



※1 爆発、発煙、発火、燻り(くすぶり)が発生し消火活動を行った場合は火災として扱う

※2 高温状態から煙を発生し消火活動を伴わない場合も火災として扱う

防火月間職場ミーティング

2月1日を「アイシン防火の日」と定め、毎年2月は防火月間啓発行事を展開しています。過去の火災の怖さを振り返り、防火意識を高めることで自分や職場での実践力を強めています。

火災発生時の基本4行動

万が一火災が発生した場合でも、人命優先と迅速な初期消火活動により被害を最小限に抑えるため、「火災発生時の基本4行動」をグループの標準行動として制定。行動の目的を理解するために実写映像を取り組んだ教育用DVDを作成し、教育・訓練を継続的に実施しています。

火災発生時の基本4行動

1. 大声で「火事だー!」と叫ぶ
2. 火災報知機の押しボタンを押す
3. 周囲の安全を確認して消火器で消火する
4. 危険を感じたら、避難する



火災重点設備の管理強化

火種が発生する設備を「火災重点管理設備(Fコンポ設備*)」として登録し、防火管理の強化を図っています。火種と可燃物・引火物を保有する火災リスクの高い設備ならびに火災が発生した場合に大きな被害が発生する恐れのある設備と定義し、火災防止に伴う管理項目を明確にし、順守・維持管理することで火災の未然防止をめざします。

※ Fコンポ設備: Fire Component(火種・可燃物・消火)の管理を行う設備

管理のポイント

火種	<ul style="list-style-type: none"> 火花飛散防止カバー設置 電気配線のショート防止 ヒーターの異常加熱防止 静電気の帯電防止(アース設置) など
可燃物	<ul style="list-style-type: none"> 油漏れの排除 ウエスの放置防止 可燃ごみ撤去 不要配線の撤去 堆積粉じんの回収 など
消火	<ul style="list-style-type: none"> 消火器の維持管理 自動消火装置の維持管理 排気ダクトの防火ダンパー定期点検 緊急時の処置教育 など



火災は「火種」「可燃物」「酸素」の3要素が重なって発生



Fコンポ設備表示板